

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●フェブラリーSではカフェファラオが連覇を達成

2月20日(日)に行われたフェブラリーS(G I)ではカフェファラオ(牡5歳/美浦・堀宣行厩舎)が勝利、同レース連覇を達成しました。フェブラリーS連覇は2014年・2015年のコパノリッキーに次いで2頭目のこととなります。

●調教師4名が節目の勝利を達成

2月19日(土)の1回東京7日・第5レースではストキャスティックが1着となり、同馬を管理する大竹正博調教師(美浦)は、現役72人目となるJRA通算300勝(延べ3087頭目)を達成しました。翌20日(日)の1回阪神4日・第1レースではパトリオットランが1着となり、同馬を管理する渡辺薫彦調教師(栗東)は現役151人目となるJRA通算100勝(延べ1559頭目)を達成。さらに第6レースではアネゴハダが1着となり、同馬を管理する佐々木晶三調教師(栗東)は史上100人目、現役18人目となるJRA通算600勝(延べ6687頭目)を達成しました。また同日の2回小倉4日・第5レースではスクリーンショットが1着となり、同馬を管理する杉浦宏昭調教師(美浦)は、現役46人目となるJRA通算400勝(延べ6472頭目)を達成しています。

●ダノンファンタジー、ブラストワンピースらの競走馬登録抹消

2018年阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)などの勝ち馬ダノンファンタジー(牝6歳/栗東・中内田充正厩舎/JRA通算18戦7勝)、2018年有馬記念(G I)などの勝ち馬ブラストワンピース(牡7歳/美浦・大竹正博厩舎/JRA通算17戦7勝・海外1戦0勝)、2019年小倉2歳S(G III)の勝ち馬マイネルグリット(牡5歳/栗東・吉田直弘厩舎/JRA通算14戦3勝)、2017年きさらぎ賞(G III)の勝ち馬アメリカズカップ(牡8歳/栗東・音無孝孝厩舎/JRA通算42戦4勝)は、1月21日(金)までに競走馬登録を抹消されました。ダノンファンタジーは北海道苫小牧市のノーザンファーム空港で繁殖馬、ブラストワンピースは北海道苫小牧市のノーザンホースパーク、アメリカズカップは大阪府枚方市の乗馬クラブクレイン学研枚方で乗馬となる予定です。マイネルグリットは地方・高知競馬に移籍しています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●たんぼぼ賞(佐賀)は地元佐賀の熊本産馬タケノサイコウ

九州産3歳馬限定戦のたんぼぼ賞(2月23日、佐賀、1400m、JRA所属馬は1勝クラス)は、中団から差を詰めた2番人気のタケノサイコウ(飛田愛斗騎手、牡、父ロードバリオス)がゴール前の接戦を制し、JRA(2戦未勝利)から佐賀へ転入以来の連勝を9に伸ばしました。逃げた単勝1.8倍で断然人気のJRA所属馬マイルテソロは3着でした。

●フェブラリーS(東京)に挑んだ船橋のムーチャリーは10着

フェブラリーS(G I、2月20日、東京)に3年連続で出走したムーチャリー(船橋)は、中団のまま10着に終わっています。

●笠松競馬場で新型コロナのクラスター発生、開催中止に

笠松競馬場では、2月6~18日に所属騎手(他地区から期間限定騎乗中の者を含む)16名中9名が新型コロナウイルス検査で陽性となったため、クラスターが発生している状況と判断し、2月21~25日の競馬開催を中止しました。

●ショウナンナデシコらが参戦、3月2日のエンプレス杯(川崎)

エンプレス杯(Jpn II、3月2日、川崎、2100m)は、前走のTCCK女王盃2着惜敗のショウナンナデシコが最有力、以下レースブランシュ、プリティーチャンス、サルサディオオーネ(大井)、ウェルドーン、ダイアナブライト(川崎)、メモリーコウ(大井)、クリノフラッシュまでが争覇圏内と考えられます。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●米ジョッキークラブが種付け頭数制限を撤廃

アメリカ、カナダ、プエルトリコの血統登録機関である米ジョッキークラブは2月17日、前記3か国における種牡馬の年間種付け頭数を1頭につき最大140頭に制限するルールを撤廃を発表しました。このルールはサラブレッドの遺伝子プールの多様性を高めるとともに、サラブレッドの長期的な健康を守ることを目指し、2020年生まれ以降の種牡馬を対象として2020年5月に導入されました。しかし反対意見も多く、米ジョッキークラブは「団結して取り組まなければならない問題が多くある中で、このルールによって競馬界が分断されることを懸念している」として撤廃を決めました。

●G1香港ゴールドC~ロシアンエンペラーがG1初制覇

2月20日に香港のシャティン競馬場で行われたG1香港ゴールドC(3歳上、芝2000m)はB.シン騎手の手綱で後方2番手でレースを進めたロシアンエンペラー(騾5歳、父ガリレオ、D.ホワイト厩舎)が稍重馬場をものともせず、直線で力強く伸びて4馬身 $\frac{1}{4}$ 差で優勝。G1初制覇を果たしました。なお、前走のG1スチュワーズCで連勝が16で止まったゴールデンシックスティは最後方から末脚にかけましたが、伸び切れず3着に終わりました。